

米国 企業活動の堅調さ持続 (06年3月ISM非製造業景気指数)

発表日: 06年4月5日(木)

～ 四半期では緩やかにモメンタム低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

ISM非製造業景気指数の推移

	活動指数	新規受注	雇用	在庫引当	入荷遅延	受注残高	仕入価格	新規輸出受注	輸入	在庫変動
05/03	61.8	61.8	57.0	64.5	53.0	56.5	65.9	51.5	59.0	52.5
05/04	60.4	60.6	53.1	60.5	53.0	54.0	64.1	52.5	58.5	54.5
05/05	59.2	59.1	54.1	63.0	53.5	56.5	62.4	62.0	57.5	51.5
05/06	61.1	58.8	56.4	64.5	56.5	52.5	61.6	50.0	58.5	52.0
05/07	60.4	61.6	55.9	64.0	57.0	53.5	69.5	53.5	62.0	52.5
05/08	64.8	64.3	59.4	67.0	55.0	52.0	67.2	63.5	61.5	53.5
05/09	53.7	57.0	56.2	64.0	56.0	52.0	78.4	55.0	58.5	50.0
05/10	59.2	58.5	53.1	55.0	58.5	55.0	74.1	54.5	53.5	50.0
05/11	59.3	60.0	56.7	60.0	60.5	54.0	70.8	57.0	56.5	54.0
05/12	61.0	62.2	56.9	59.0	56.5	54.0	67.2	61.5	56.5	56.0
06/01	56.8	56.0	51.1	63.0	54.5	52.5	67.2	58.0	49.5	55.0
06/02	60.1	56.2	58.2	63.5	52.5	54.0	64.8	60.0	55.0	53.0
06/03	60.5	59.5	54.6	63.0	54.0	50.5	60.5	63.5	60.5	54.0

(出所) ISM

60.5 と市場予想を上回った

06年3月のISM非製造業景気指数は、60.5と市場予想の59.0への低下に反し前月比0.1ポイント上昇した。拡大縮小の分岐点である50を36ヵ月連続で上回り2003年半ば以降のレンジを維持していることから、非製造業部門は堅調な状態にあると判断される。17業種中13業種(前月の10業種)が前月から拡大し、特に高い伸びを示した業種は娯楽、公益、鉱業、保険、法律サービス。一方、前月から悪化したのは、不動産、健康サービスの2業種にとどまった。不動産の低下は住宅販売減少の影響とみられる。健康サービスに関しては政府のメディケア支出の増加によって需要が鈍化したと考えられる。

3月のISM統計では、製造業景気指数が予想に反して前月比で低下したものの高い水準を保ち、さらに非製造業景気指数が60.5に上昇したことから、企業部門の活動は3月も堅調さを維持していると判断される。ただし、四半期でみると1～3月期の製造業、非製造業景気指数がともに10～12月期から小幅低下しておりモメンタムは鈍化し始めている。

受注の拡大ペースを加速を示唆

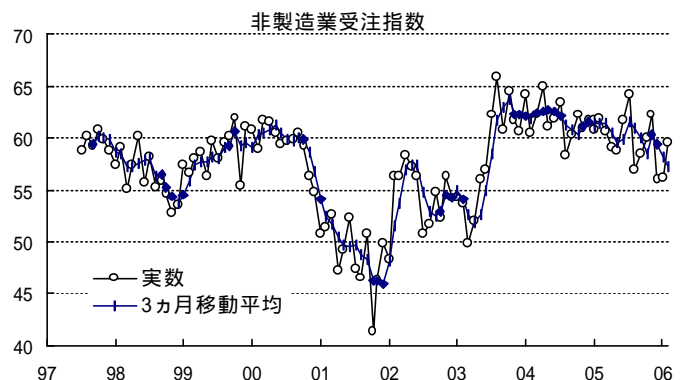
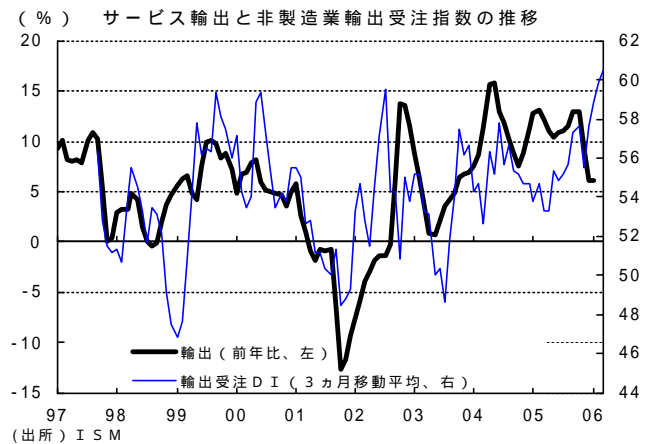
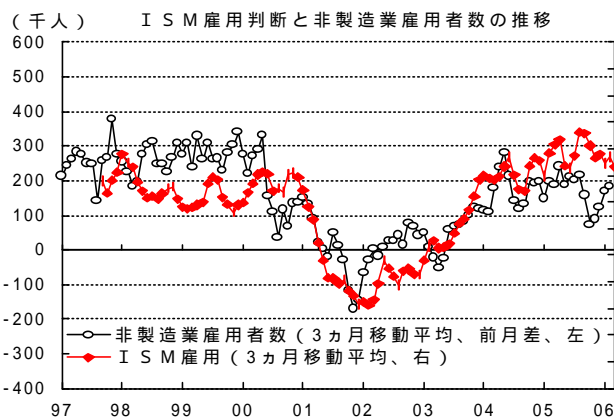
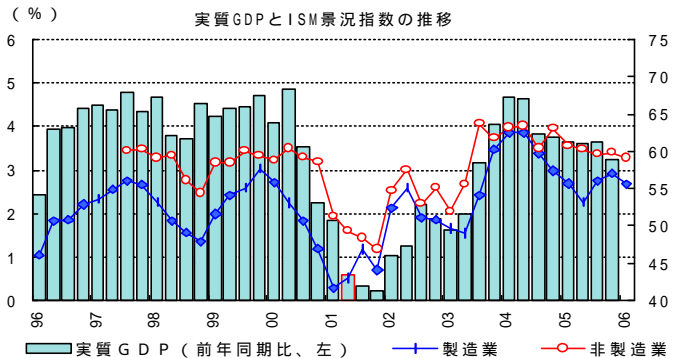
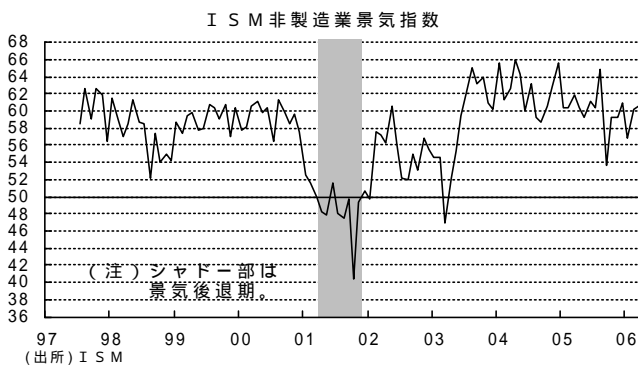
個別にみると、新規受注指数が59.5と前月から3.3ポイント上昇し、高い水準を維持した。特に高い伸びを示した業種は、娯楽、公益、法律サービス、小売、卸売となった。

雇用関連では、雇用指数は54.6と前月から低下した。増加した業種は17業種中14業種、減少したのは1業種、残り2業種が前月と変わらずとなった。特に増加幅が大きかった業種は、需要が強まっているビジネスサービス、熟練労働者不足の鉱業、法律サービス、娯楽、公益、不動産。減少したのは、コスト削減圧力の強い卸売業。この結果、3月の雇用統計では、非製造業雇用者数は3ヵ月移動平均で拡大ペースが鈍化すると予想される。

物価面では、商品価格指数（仕入れ価格）は60.5と昨年9月をピークに低下傾向を辿っており物価上昇圧力が緩和し始めている。

外需関連では、世界製造業景気指数、世界サービス業景気指数を合成した世界総合景気指数が3月に58.5と2月の58.2から上昇するなど、世界の企業活動が1～3月期に加速したことが示されている。このような世界的な企業活動の活発化を背景に新規輸出受注が63.5と前月から3.5ポイント上昇したことから、サービス輸出の拡大ペースが加速しているとみられる。このため、貿易統計ベースのサービス輸出は2006年2、3月と伸び率が高まる可能性が高い。一方、輸入指数が60.5と前月から4.5ポイント上昇し高水準を維持していることから、引き続き貿易統計ベースの輸入は高い伸びが見込まれる。

在庫面では、在庫センチメントが63.0と前月から0.5ポイント低下した一方、在庫変動指数は54に上昇した。在庫に過剰感が生じており、今後在庫積み増しに慎重になる可能性がある。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。